

子猫を保護したとき

Q1 子猫を保護しました。まず何をしたらよいですか？

A1 まずは獣医さんの診察を受けましょう。けがや病気の可能性があります。放置された子猫は発育がよくありませんし、放置された時間が長くなるほど状態が悪くなるので、なるべく早く動物病院へ連れて行き、健康診断（年齢、性別、病気、けが、血液検査など）をして適切な処置をとりましょう。寄生虫駆除（駆虫）やノミの駆除をどうしたらよいかについても確認しておきましょう。

猫の保護にご理解がある獣医さんに連れて行き、ホームドクターとして協力してくれるようにお願いしておくとういことです。

悲しいことですが、生きられない状況の子猫もいます。診断後、大往生させることを考える必要がある場合は、よく相談してください。

サッピーから

生後1～2週間の子猫を保護したときは、おへそを見てね。へその緒がきれいにとれていたらいいけど、じくじくしてたりしたらウイルスを持っている可能性があります。そんなときは、他の犬や猫などが接触できないように隔離してほしいんだ。

メイから

すぐ獣医さんに連れて行けないときは、Q2へのこたえを参考にしておうちでせわして、獣医さんに行けるようになるまでなんとか乗り切ってね。

Q2 家でどのような世話をしたらよいですか？

A2 寝床、保温、水分補給、栄養補給、トイレの用意をしましょう。

寝床……子猫が安心できるような寝床を用意します。たとえば箱にタオルを敷き、半分ぐらい蓋をしたり布をかけたりにして物陰を作ります。猫は狭い場所やすみっこが大好きなので、目立たない場所を選んであげましょう。

保温……特に生後間もない子猫の場合は保温に気をつけます。赤ちゃんのときは自分では体温を保つこ



とができないからです。何匹かいればくっついて温めあいますが、それだけでは不十分。1匹の場合は特に注意します。湯たんぽやペットボトルにお湯を入れてタオルで巻き、寝床にする箱などの環境を35～40℃くらいに保ちましょう。

冷たい手でさわると子猫の体温を奪ってしまうので、授乳などで子猫にふれるときは手を温めてからにしましょう。

水分補給……いつでも清潔な水が飲めるように用意します。

栄養補給……子猫の年齢と体調に合うエサをあげます。缶詰だけ、ドライフードだけ、一つの種類だけなどかたよった与えかたでなく、いろいろな種類のものをあげるようにしましょう。

まだミルクが必要なときは、子猫専用のミルクを飲ませます。牛乳だと子猫に必要なたんぱく質の量がたらないためきちんと発育しませんし、成分の違いにより下痢をして、かえって体力がなくなって危険です。獣医さんやペットショップで子猫用（「特殊調整粉ミルク」と書かれている）を入手して、説明をよく読んで作ってあげてください。

まだお皿から飲めない場合は、猫用哺乳器で飲ませます。哺乳器がないときは、スポイトや針をつけていない注射器に入れて、口の脇のすきまに押し出すようにしてみましよう。それでも飲まなかったら、綿棒にミルクをひたして同じようにやってみてください。そのときは、必ず横向きか腹ばいで与えます。上向きなどで与えると肺に入り、肺炎をおこしてしまう可能性があるからです。

生後1週間くらいの子猫には2時間に1回、生後2週目くらいならば4時間に1回くらいの割合で、10～20ml程度を飲ませます。